

令和4年度 第1回北広島市食育推進懇談会会議録

日 時	令和5年3月22日（水）18時00分～19時15分
会 場	保健センター検査室
出席委員	鵜沼美恵子委員、長島博子委員、中山敦子委員 米村恒委員、若林公一委員、鈴木里絵子委員、槌本浩司委員、 藤井智子委員
欠席委員	東隆史委員、湊隆委員
事務局	奥山衛保健福祉部長、影久真美健康推進課長、 伊達千秋防災食育施設整備担当参事、 槇田美有紀健康推進課主査
傍聴人	1名

1. 開会

2. 選任書の交付

3. 保健福祉部長あいさつ

4. 委員自己紹介

5. 議事

(1) 食育推進計画（第3次）に係る令和4年度の進行状況報告

- ・事務局から説明を行った。資料1～3、当日追加資料のとおり。
- ・【委員】地域団体と情報共有したと資料にあるが、消費者協会も様々な活動をしている。エコクッキング、地産地消コンテスト、フードドライブ、米と乳製品の普及、親子の食育の推進等。令和4年度に情報共有した以外の団体とも、今後情報共有をしてほしい。
- ・【委員】資料2で、事業毎に分野別の推進項目に○をつけているが、次年度以降変更もあり得るのか。
【事務局】今年度の事業内容に対しての推進項目なので、同じ事業でも内容が変更になれば、○がつく項目も変わっていく。
- ・【委員】資料2の16「保育所の給食での地場農作物の活用」と22「学校給食での地場農作物の活用」、17「保育所における給食だより」と23「小中学校における給食だより」は、分野別の推進の項目が同じになると思うが如何か。
- ・【事務局】担当部署に確認して修正する。

- 【委員】資料2の29「特定健康診査（国民健康保険）」は、歯と口の健康の推進も含まれると考えるが如何か。
【事務局】上記のとおり修正する。
- 【委員】小中学校の給食は、新型コロナウイルス感染症対策の変更により、小さな声で会話しながら食べられるようになった。黙食している時よりも子ども達は楽しそうで、給食はコミュニケーションの1つになっている。北海道の肥満統計も驚いた。北海道は、冬場は雪で外遊びの機会が減り、低学年は外で遊ぶが、高学年は、外に出たがらない。新型コロナウイルス感染症対策で、休み時間の体育館開放も1学年毎になっており、身体を動かす機会が、コロナ前よりも少なかった。
ボールパーク開業は、子ども達も楽しみにしている。クボタとの連携に期待している。
- 【委員】飲み物の糖分量の資料は、実際の量が分かってよい資料だと思った。大学生の食の実態の話があったが、1人で食べる食事は張り合いがないという気持ちは、その通りだと思った。1人暮らしの方もバランスよく食べられるような仕掛けが必要。
- 【委員】計画の中に記載があり、事業ができていないものは今後の課題。ボールパークをうまく活用して食育につなげること、その時に市内にいる食に精通した市民も巻き込めるとよい。飲み物の糖分量の資料は、作成に時間がかかるので、1年に1つが限度だと思う。その年度の重点を決めて取り組むとよいと思う。
- 【委員】子ども達に、食事が食卓にあがるまでのありがたさを知ってもらいたい。生産者、流通の人、調理をする人、たくさんの方が関わって自分達は食べることができる。直売所に行って旬の野菜はどんな野菜か、この野菜で何を作るかを子どもと考えるようにしている。子ども達が、健康や環境に配慮した適切な食の選択ができるようになるためには、保護者の力が必要であり、保護者への教育が必要と思っている。
- 【委員】物価高騰は、学校給食にも影響があり、一人1回当たり米は2円、麺は7円、牛乳は5円値上げとなった。その中でも、安くて良い物を子ども達に食べてもらおうと、地場産品も取り入れながら工夫している。
- 【委員】幼稚園は、昨年度から新型コロナウイルス感染症対策をとりながらクッキングを開始した。子どもは経験から学ぶので、今年度は、田植え、稲刈り、脱穀と稲作の一連の流れを経験した。来年度も親子での食の体験を増やして、子ども達の学びの場にしていきたい。
- 【委員】外食産業では食品ロス削減のために、メニューを注文する際に白米の量を減らして注文すると、会計時に値引きしてくれる企業がある。日本が過度

な輸入から脱却するためにも、見直せることはまだあると思う。

- ・【委員】フードドライブを行った時に、親子連れがたくさん来て、食品の提供があり、それを子ども食堂や困っている方に配布した。食べ物は、生命をいただくことであり、食を大切にすることを伝え続けていきたい。

6. その他

- ・次回の開催は、令和6年3月頃を予定。

7. 閉会